

ありがとう。

閉校記念誌

明治6年(1873年)～令和7年(2025年)
羽生市立三田ヶ谷小学校





もくじ

- 挨拶..... 2
- ご祝辞..... 3
- 校舎の変遷..... 4
- 151年のあゆみ..... 5
- 学年のページ..... 8
- 三田ケ谷小学校の1年間..... 11
- 150周年記念式典等の記録... 13
- あとがき..... 14

学校教育目標

自らの夢をもち
夢に向かって
心豊かに
たくましく
生きる子



キャラクター
たからっち

校歌

宮澤 章二／作詞 下総 皖一／作曲

一 明るい空が われらの上に
明るい風が われらの胸に
いつも三田ケ谷の まなびやは
やさしくわれらを よんでいる

二 楽しい友が われらの脇に
楽しい歌が ああ教室に
いつも三田ケ谷の まなびやは
花咲く匂いに 満ちている

三 正しい道が われらの前に
はるかな道が われらの前に
いつも三田ケ谷の まなびやは
まことの行く手を さししめす

挨拶

役割

羽生市立三田ケ谷小学校長 高野 達

第二十二代校長として、羽生市立三田ケ谷小学校長として着任する際、県教育委員会の上席から、「令和五年度が開校百五十周年、令和六年度をもって閉校する学校」との話があり、最後の校長として、周年行事をしっかりと行った上で、学校を無事に閉校させることが自分の役割であることを認識しました。

三田ケ谷地区に隣接する手子林地区の住民として、三田ケ谷地区住民の皆様への団結力の強さは耳に入っていました。三田ケ谷小学校での二年間で、交通安全指導、野菜づくりをはじめとする授業支援、運動会準備のための除草剤散布や草刈り、周年行事運営など、絶大な支援をいただき、いくら感謝を伝えても足りないほどでした。

本校で四十一年の長きに渡り、保護育成活動を続けてきました。観察池のムジナモも、子供たちとともに、羽生市立羽生東小学校や羽生市立東中学校に引越して、その活動が継続できる見通しも立ちました。東日本大震災の際に人々の心を支えた宮澤章二先生の思いが詰まった、「宮澤章二記念館」の資料も羽生市立郷土資料館に移ります。

最後の校長としての役割をしっかりと無事に果たせたかどうかについては、自分では判断しかねますが、羽生市立三田ケ谷小学校の歴史が詰まったこの「閉校記念誌」を、三田ケ谷地区全戸に配付させていただくとともに、閉校記念式典でお配りしました。子供たちの閉校への思いが詰まった、三田ケ谷地区の二工房とのコラボ「閉校記念品」を皆様へのお礼とさせていただきます。百五十一年間、どうもありがとうございました。

挨拶

三田ケ谷小学校の閉校に寄せて

三田ケ谷小学校 PTA会長 平野 哲雄

私は令和二年度から五年間PTA会長を務めさせていただきました。二万五千平米の広大な土地と十数名の先生方と五十に満たない家庭数ということで、地域の皆様に支えていただき任務を果たすことができました。自治会の福地支部長や体育振興会の長谷川会長をはじめ地域の皆様には、除草作業や遊具のペンキ塗りなどの環境整備や、田植えや稲刈り、学校農園や和太鼓などの学習支援まで、惜しみなくご協力をいただきましたこと、心から御礼申し上げます。

教職員の皆様には子供たち一人一人と真剣に向き合い、沢山の愛情をかけていただき、子供たちを立派に育ててくださいました。最後の運動会では子供たちと一緒に玉入れや綱引きができたこと、最高の思い出になりました。ありがとうございました。

また、任期を超え、共に走ってくれた西山佳孝さん、三井紗代さん、萩原正和さん、飯塚久美子さん、藤野あゆみさん、西野美穂さん、一緒に汗をかいてくれた多くの保護者の皆様、本当にありがとうございました。ありがとうございました。

結びに、子供たちのことを第一に思い、そして行動できる素晴らしい方々と出会うことができたこと、このような貴重な経験ができたことを、心から有難く幸せに思います。引き続き、新たにスタートする羽生東小学校に温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。閉校に当たった挨拶とさせていただきます。

三田ヶ谷小学校の閉校に寄せて

羽生市長 河田 晃明

創立百五十一年の三田ヶ谷小学校が、閉校の時を迎えます。今日までの長きにわたり、歴代の校長先生をはじめ諸先生方が、児童への深い愛情をもち、教育に対する情熱とたゆまぬ御努力により輝かしい伝統を築き上げてこられましたことに、心から敬意を表します。また、絶えず変化する時代に応じた教育環境の充実や、地域と一体となった学校行事等の活動に際し、学校に対する限りない愛情と理解をもってお力添えいただきました保護者や地域の皆様方に、改めて感謝を申し上げます。

少子化により児童数が減少する中、子どもたちにとってより良い教育環境を整えるため、本校は井泉小学校と村君小学校との再編成により、その輝かしい歴史に幕を下ろすことになりました。多くの皆様にとって愛する学校の閉校は、まさに断腸の思いであると存じますが、本校の伝統と実績は、新たな羽生東小学校の礎となり、将来を担う子どもたちに受け継がれていくものと確信しております。

本市といたしましても、子どもたちの無限の可能性を育むための教育環境づくりに、全力で取り組んでまいりました。

結びに、今日までの間、本校を支えてくださいました関係者の皆様に深甚なる敬意と感謝を申し上げますとともに、「まことの行く手を さししめす」新たな学び舎で育っていく三田ヶ谷の子どもたちを見守ってくださいますようお願い申し上げます、御挨拶いたします。

校舎の変遷



▲1986年(昭和61年)



▲2001年(平成13年)

▲木造校舎(昭和時代)



▲1993年(平成5年)



▲2013年(平成25年) / 創立140周年
▲2023年(令和5年) / 創立150周年

三田ヶ谷小学校の閉校にあたって

羽生市教育委員会教育長 秋本 文子

地域の皆様に愛され、長きにわたり輝かしい歴史と伝統を築いてこられました三田ヶ谷小学校が閉校の時を迎えます。

開校以来、本校の発展に情熱を注がれた歴代の校長先生をはじめ教職員の皆様の熱心な御指導と、保護者や地域の皆様方の献身的な御協力に対しまして、心より敬意と感謝を申し上げます。

本校は明治六年に創立して以来、小説『田舎教師』にも描かれ、子どもたちに確かな学びを提供し、多くの立派な卒業生を輩出しました。その間、ムジナモの保護活動、田植えや稲刈り体験、野菜収穫、和太鼓体験、こども歌舞伎、宮澤章二記念館開設等、豊かな自然や地域の文化に根差した教育活動を展開していただきました。

素晴らしい自然環境の下、皆様から温かく導いていただいた三田ヶ谷っ子たちは、何にも代えがたい心の財産を育ててまいりました。子どもたちが夢や希望を抱き、健やかに成長していく姿は、私どもにも多大な喜びと感動を与えてくれました。そして、その伝統ある精神「三田ヶ谷小学校魂」は、必ずや新たな「羽生東小学校」へと継承され、大きく発展し羽ばたいていくものと確信しております。

結びに、思い出を後世に伝えていく記念誌作成に御尽力賜りました全ての皆様に、改めて衷心より感謝を申し上げますとともに、本記念誌が皆様にとって、三田ヶ谷小学校の輝かしい軌跡を振り返る貴重な記録となることを願い、挨拶とさせていただきます。

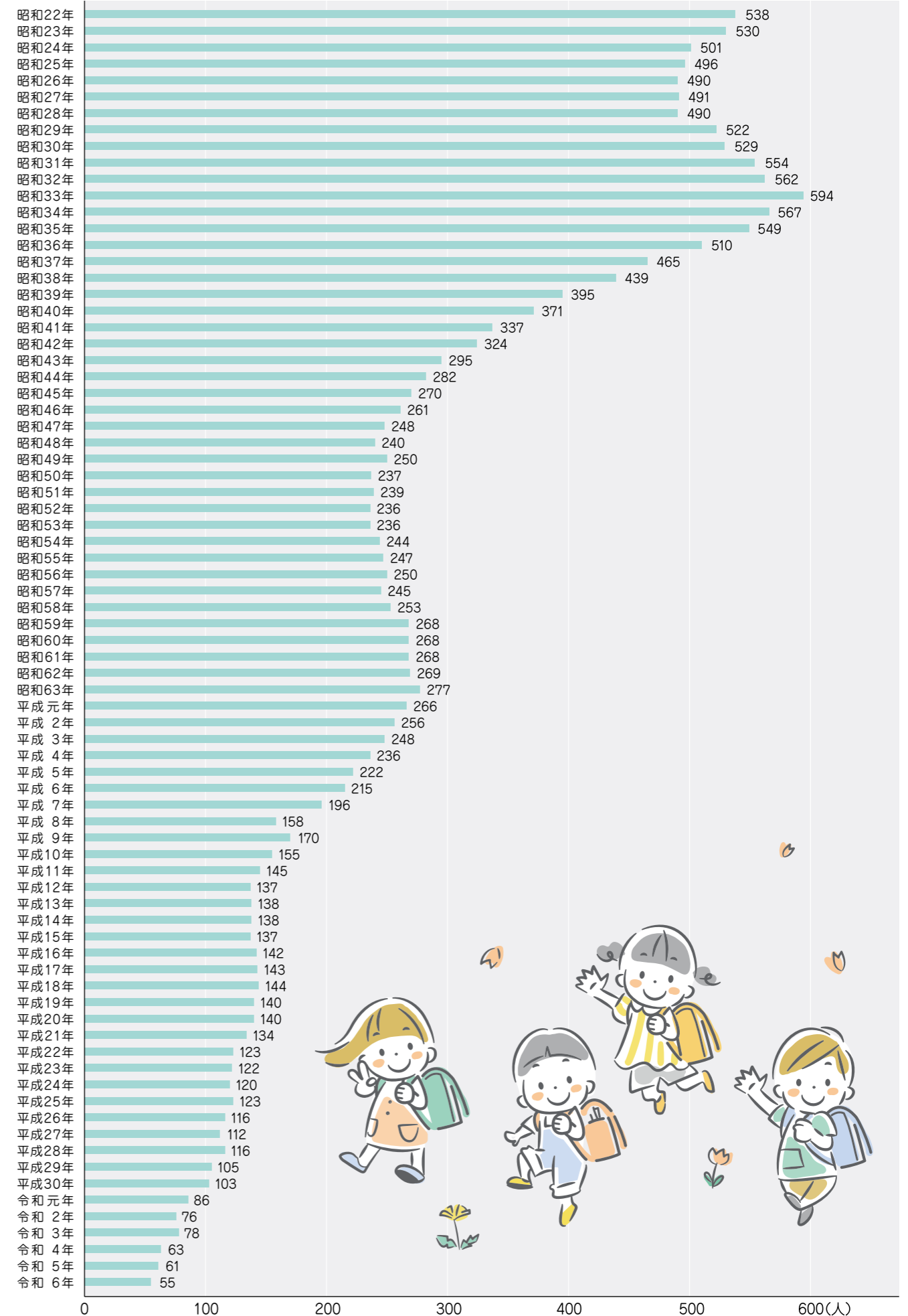
年 代	沿革の概要	歴代校長	歴代PTA会長
平成元年 3月	簡易水道から市水道に移管、メーター設置。卒業生寄贈「ムジナモ観察水槽」		
平成元年 6月	ムジナモ栽培クラブが国務大臣・環境庁長官より、地域環境保全功労者として表彰される		
平成 2年 3月	日時計設置(PTA・卒業生寄贈)		
平成 2年度		第10代 増田 四郎氏	第15代 一ノ瀬健一氏
平成 3年11月	市教委委嘱算数科研究発表		第16代 岡安 章氏
平成 4年度		第11代 山岡 孝信氏	
平成 5年11月	県教委・市教委委嘱同和教育研究発表		第17代 栗田 健一氏
平成 6年 3月	全国優良少年消防クラブとして消防庁長官より表彰を受ける		
平成 6年 7月	パソコンルーム設置、コンピュータ15台、大型テレビ設置	第12代 市川 義晃氏	
平成 6年10月	プールトイレ水洗化改修		
平成 7年 9月	校庭散水機8基設置、校門拡幅工事		第18代 鎌田 功一氏
平成 8年12月	第二校庭南側フェンス改修工事	第13代 山口 久男氏	
平成 9年 3月	万国旗掲揚塔設置		
平成 9年12月	生き生きユニークフラワーロード設置		第19代 斎藤 邦夫氏
平成10年 3月	屋外放送設備設置		
平成11年 3月	耐震補強工事		
平成11年度			第20代 儘田 明氏
平成12年 3月	コンビネーション遊具設置		
平成12年度		第14代 原田 友之氏	
平成13年 3月	プール竣工		
平成13年11月	緑化促進協力会委託事業の実施(花水木、クスノキ等の植樹)		
平成14年 3月	市教委委嘱算数科研究発表		
平成14年度			第21代 栗原富美夫氏
平成15年 3月	学校周辺環境整備(ヒマラヤシダ・棕の木伐採、垣根修理)		
平成15年度		第15代 福田 治夫氏	
平成16年度			第22代 羽鳥 義則氏
平成17年 6月	登り棒設置		
平成18年 2月	駐車場の舗装		
平成18年11月	市教委委嘱体育科研究発表	第16代 熊倉 幸一氏	
平成19年 5月	第61回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」において野生生物保護功労者表彰「環境省自然環境局長賞」受賞		第23代 西山 文由氏
平成20年 4月	埼玉県指定「野生の生き物とふれあう学校」(平成20年~24年)	第17代 島田 清子氏	
平成21年 8月	校舎大規模改修工事完了		
平成22年度			第24代 横田 浩之氏
平成23年 3月	校門より70m舗装工事完了		
平成23年11月	市教委・市教研委嘱算数科研究発表	第18代 江原 博之氏	
平成24年 3月	埼玉県学校環境緑化コンクール優良校として表彰される		
平成24年 4月	階段昇降機設置。体育館通路(バリアフリー用)工事完了		
平成25年 1月	宮澤章二記念館開館		
平成25年 4月	埼玉県指定「野生の生き物とふれあう学校」(平成25年~29年)		第25代 塩原 進一氏
平成25年 9月	マスコットキャラクター「たからっち」生誕		
平成27年度		第19代 高田 一氏	
平成28年11月	市教委委嘱国語科研究発表		第26代 島田 和幸氏
平成31年 2月	彩の国埼玉環境大賞 優秀賞受賞		
令和元年 5月	日本鳥類保護連盟会長賞(環境省)	第20代 細村 一彦氏	
令和 2年10月	県算数数学教育研究会委嘱研究発表		第27代 平野 哲雄氏
令和 3年10月	市教委・市教研委嘱算数科研究発表	第21代 関根 渉氏	
令和 5年11月	開校150周年記念式典 実施	第22代 高野 達氏	
令和 7年 3月	閉校記念式典 実施		

年 代	沿革の概要	歴代校長	歴代PTA会長
明治 6年 4月	創立三田ヶ谷小学校と称し、蓮台寺借用開校		
明治13年 4月	校舎狭溢のため大字三田ヶ谷中新田の農家を借用校舎に充つ		
明治18年 4月	町村合併に依り三田ヶ谷村は大越村と合併、本校を大越村に移し、三田ヶ谷小学校は分校となる		
明治22年 4月	町村制施行により三田ヶ谷村は大越村と分離。三田ヶ谷分校は独立し、三田ヶ谷尋常小学校となる		
明治42年 4月	高等科を併置し三田ヶ谷尋常高等小学校と改称		
明治44年 9月	大字与兵衛新田に新校舎新築移転する		
大正 7年 9月	農業補習学校付設		
大正14年 6月	付設農業補習学校は学則変更により三田ヶ谷公民学校と改称		
大正15年 7月	付設三田ヶ谷公民学校は三田ヶ谷青年訓練所と改称		
昭和14年10月	校旗樹立		
昭和16年 4月	三田ヶ谷尋常高等小学校を三田ヶ谷国民学校と改称		
昭和22年 4月	三田ヶ谷国民学校を三田ヶ谷小学校と改称	初代 今成 愛市氏	初代 中川 乃婦氏
昭和27年12月	校歌制定(作詞/宮澤 章二 作曲/下総 皖一)		
昭和33年 6月	学校統合により三田ヶ谷中学校が廃校となり、校舎が小学校に移管され児童半数を移す 学校管理室を旧三田ヶ谷中学校(大字弥勒357番地)に移す		
昭和36年度		第2代 五月女政雄氏	
昭和37年 3月	旧三田ヶ谷小学校を廃し、新校舎増築(普通教室6 特別教室1)移転する		
昭和38年 5月	新校舎落成式。これを記念し、5月27日を開校記念日と定める		
昭和40年 2月	屋内運動場84坪及通路竣工		
昭和41年度		第3代 新井 義一氏	
昭和42年 5月	築山(三田ヶ谷富士、芝山、なかよし高原)をきずく		第2代 福田 一二氏
昭和44年 3月	渡り廊下をコンクリート通路に改装。卒業生寄贈「友情の池」		
昭和44年 8月	簡易プールの設置		
昭和45年度		第4代 根岸 庄一氏	
昭和46年度			第3代 石合 博氏
昭和47年度	校内舗装。プールトイレ付設、東門扉設置、校舎外部塗装する		
昭和48年度	正門扉設置、西トイレ改築	第5代 岩崎 武光氏	第4代 速水 和生氏
昭和49年度			第5代 奥沢 孝雄氏
昭和50年12月	校庭東側排水溝工事		
昭和51年 7月	プール改造(鉄筋コンクリート)		
昭和52年 1月	校庭囲障工事(40m延長)		
昭和52年度			第6代 秋山 元治氏
昭和53年度	新校舎完成し、旧校舎2棟撤去し跡地を整地する		第7代 秋山 礼二氏
昭和54年度	垣根補修、飼育小屋整備、ブランコ、鉄棒(高低)設置	第6代 関根 章子氏	第8代 栗原 光由氏
昭和55年度	渡廊下改修、第二校庭整備、垣根補修		
昭和56年 3月	第一校庭南排水溝延長工事、同校庭西排水溝金網蓋設置		
昭和56年度			第9代 須永 弘氏
昭和57年度		第7代 関根 正義氏	第10代 島田 文明氏
昭和58年 3月	体育館竣工(750㎡)遊具移動		
昭和58年度			第11代 奥沢 恒夫氏
昭和59年 9月	校旗制作、焼却炉設置		第12代 寺崎 高夫氏
昭和59年11月	県委嘱放送教育研究発表、体育館通路屋根完成、旧校舎3号館撤去	第8代 藤田 昇一氏	
昭和60年 7月	県教委、県小体連委嘱、体育授業研究会発表、学校緑化北埼玉地区最優秀賞		
昭和61年 3月	国旗掲揚塔設置、第二校庭整備及び配水管工事、危険物置場設置		
昭和61年度			第13代 平野 賢治氏
昭和62年 2月	体育館暗幕設置、校舎案内板設置		
昭和62年 6月	プール更衣室竣工(24㎡)	第9代 石井 博治氏	
昭和63年 3月	体育館舞台設置		
昭和63年11月	市教委委嘱国語科研究発表		第14代 中川 俊夫氏

1年1組



2年1組



5年1組



3年1組



6年1組



4年1組



三田ヶ谷小学校の1年間



4年 稲刈り体験



運動会



3年 音楽会



6年 修学旅行(鎌倉・箱根)



感謝の集い



卒業を祝う会



卒業証書授与式



修了式



入学式



始業式



4年 田植え体験



1年生を迎える会



2年 野菜の植え付け



6年 陸上記録会



ムジナモ集会



水泳学習



5年 林間学校(日光)

150周年記念式典等の記録



▲三田ヶ谷小学校
マスコットキャラクター「たからっち」

宮澤章二記念館



ムジナモ観察池



令和5年度 開校150周年記念事業



▲記念グッズ

▲記念バルーンリリース

▲記念米粉のお菓子 (ロアール洋菓子店とのコラボレーション)

▲記念のぼり旗

▲メモリアルボード

令和6年度 閉校記念事業 閉校記念品



▲コースター

▲ブックマーク
(金属製しおり)

あとがき

明治五年の学制発布を受け、明治六年（八七三）に蓮台寺を借用して三田ヶ谷小学校がスタートしてから、昨年度で百五十周年、今年度で閉校を迎えることになりました。昭和三十三年には、その十分の一の五十五名となり、人口減少に伴う学校再編が必要となりました。コロナ禍で思うような教育活動ができない日々を乗り越え、子供たちは日々明るく元気に学校生活を送っていますが、それは、歴史と伝統に育まれたこの三田ヶ谷地区の地域の皆様、保護者の皆様の支えがあればこそだと感じています。子供たちは、三田ヶ谷小学校で培った「心豊かにたくましく生きる力」を踏まえ、東中学校や再編成される新校の羽生東小学校で、その学びを生かしていきます。ぜひ、御支援・御協力をお願いいたします。最後にりましたが、本記念誌を発行・三田ヶ谷地区全戸配付にあたり、御寄稿・御協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

羽生市立三田ヶ谷小学校閉校記念誌

編集・発行／羽生市立三田ヶ谷小学校

閉校記念事業実行委員会

〒三四八〇〇〇四 埼玉県羽生市弥勒八七

電話：〇四八五五六一〇〇八

撮影・制作／三共印刷株式会社

〒三六一〇〇二一 埼玉県行田市富士見町二一三〇

電話：〇四八五五六一〇〇一

発行日／令和七年二月吉日



閉校記念誌

羽生市立三田ヶ谷小学校